



# 村中小学校150周年

令和元年  
5月10日  
第2号

**村中小学校は、明治6年(1873年)開校です。そして、令和4年(2022年)が、開校150周年になります。**

## 村中小学校の150年(2)

150周年に向けて集まった情報の中から新聞の形でお届けできたらと考えています。第2回目は、学校のできる前(寺子屋時代)についてです。

村中小校区には江戸時代後半からたくさんの寺子屋があり、僧侶・神官を中心に、学習が進められていました。



(寺子屋での様子を表す絵)

### 【河内屋新田】(高岸寺)

現 河内屋会館の場所に移る前の寺  
師匠：金山専円(僧侶)  
寺子数 28名(江戸時代末)

### 小学校の思い出 昭和27年卒業生

昭和25年当時、周りは麦畑で戦後すぐで物資は乏しくみんな貧乏でした。履き物は男はゴム製の万年草履で、雨が降れば番傘でした。給食はなく弁当は麦飯かサツマ芋だけでした。弁当のない子にはみんなでお芋をあげていました。

学校は木造で、校舎に囲まれた中庭が運動場でした。正面には職員室、その前の大

### 【入鹿出新田】(圓昌寺)

師匠：村上祖禅 稲山勘三郎  
西尾令準 寺子数 30名

### 【横内】(2か所)

師匠：丹羽忠治 丹羽宮臈  
寺子数 2校で51名

※ 1つは庚申堂(現在廃寺)か。

### 【村中】

師匠：木全正彦 師匠が神官であることから、場所は片山八幡社か。  
師匠は、後に蒼浪<sup>そうろう</sup>学校の先生  
寺子数 25名(明治4年)

### 【西之島】(場所不明)

師匠：水野林七  
寺子数 22名(明治3年)

### 【間々】(間々乳観音)

師匠：恵雲(僧侶) 飛車静輪(僧侶)  
伊木甚兵衛 寺子数 70名

きな木の前に二宮金次郎像がありました。プールはまだありません。そのかわり毎日、巾下川で泳いでいました。夏休みは中庭に幕を張り、弁士が語りをする無声映画を上映していました。

私は図書委員でしたので、4人の子と残って本の修理もしました。

(お寄せいただいた思い出より)

**情報をどんどんお寄せください。**

# 村中小学校の150年(2)

当時の寺子屋とは、どのような場所であったのでしょうか。参考になるのが『学制百年史』や『愛知県教育史』です。興味深い内容を紹介します。

## 【服装は】

- 当時の寺子の服装は、手製木綿の着物に羽織りまたは胴着<sup>たひ</sup>足袋<sup>び</sup>
- 夏は内織木綿の単衣<sup>ひとえ</sup>に木綿絞りの帯

## 【学習内容は】

- 教科は書の一科目のところから、「読み・書き・珠算」の三教科、さらには地理や作文も教える寺子屋もありました。
- 教科書は「いろは」「名頭」「村つくし」「百姓往来<sup>ひやくしやうおうらい</sup>」「手紙文<sup>ていきんおうらい</sup>」「庭訓往来」「四書」「五経」など、師匠の選択で決められました。



「村つくし」 この付近の地名がわかる。

※ 村中原新田は大正時代に横内に改名

## 【授業の方法】

- たいてい朝から2・3時頃まで学習しました。
- まず下級の者から授業を開始し、上級弟子は夕暮れ時まで学習しました。
- ときとして兄弟子が教師に代わり教えることもありました。

## 【時計がないけれど・・・】

- 時計がないため、線香で時間を計って学習を進めました。1本の線香が燃え尽きると授業時間が終了となりました。
- 線香3本が燃え尽きる頃正午となり、昼あがりでした。午後も同様に2本分の授業で、午後2・3時頃となりました。
- 登校後、学習開始までの時間は、遊びの時間だったようです。



「萬家用文章」手紙のサンプル集になっている。

※ 左ページには「一筆啓上仕候(いっぴつ けいじょう つかまつり そうろう)」で始まる暑中見舞状の例が載っている。

## 児童数の移り変わり 一番多かったのはいつ？

今年度の児童数は372ですが、児童数の記録として確認できる一番古い記録は、明治10年(1877年)の約50人。その後、明治43年(1910年)には、現在と同じくらいの395人に。

昭和38年(1963年)に全校で291人の9学級から次第に人数が増え続け、児童数が最高になったのは、昭和57年(1982年)846人22学級、その前後4年間は800人越えてした。